

◆「見えない学力・見える学力」における

津田小の子どもたちの課題

【見えない学力】

【 5 年】	【 6 年】
<ul style="list-style-type: none"> ・友達に聞くなど、様々な方法で問題解決をしようとする力。 ・友だちに積極的に教えたり、考え方を共有したりして、学びの幅を広げようとする力。 ・見直す力 ・粘り強く取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性（考える力） ・個の力（一人で粘り強く取り組む力） ・計画力（見通す力）

【見える学力】

【 5 年】	【 6 年】
<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力、読解力 ・漢字を読んだり、書いたりする力 ・計算力 ・図形を理解したり、作図したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章読解力 ・文章構成力 ・読み、書き、計算力

◆「ブロック」としての取組をする上で、明確にしておきたいこと

【子どもたちにつけたい見えない学力】

【 5 年】	【 6 年】
<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことに対して問題解決をしようとする力 <li style="text-align: center;">↓ ・友だちに教えてもらおうとする力（依存する力） ・あきらめずに、最後まで粘り強く取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性→様々な経験をし、自分に合った方法を見つけ出す。（解き方、文章構成など） ・個の力→課題を解決するための様々な手立て。（タブレット、ヒントカード、視覚補助、具体物等） ・計画力→見通しをもって各課題に取り組む手立て。（学習カレンダーの活用・期日を決めるなど）

【子どもたちにつけたい見える学力】

【 5 年】	【 6 年】
<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力、漢字を読み書きする力 ・文章を読み取り、内容を理解する力→聞かれていることを理解し、問題を解くことができる力 ・計算する力 ・図形を理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ問題で読み取る、計算、書くことの習慣をつける。 ・ただと答えを求めるのではなく、なぜその答えになったのかを考える。（図・言葉・式など）

【個別最適な学びの充実に向けた取組】⇒ **すべての児童に対して**

①指導の個別化・学習の個性化の取組

1人ひとりに応じた学習活動を、選択することができる機会の提供。

→教科書、資料集、ICT、書く、読む、見る。

タブレットを活用する。(教科に応じて、適切なツールを精選する)

②支援教育の観点に向けた取組

視覚支援、すっきりとした板書、必要な個別指導

きょうどう(支援の子のみならず)の徹底。視覚支援、見やすい板書計画。先を見通して伝える。

伝え合う、こども同士で声を掛け合う。学び合う。

【協働的な学びの充実に向けた取組】⇒ **すべての児童に対して**

①協働的に取り組む学習活動

学び合うことができる機会の提供

学び合うことができる環境・雰囲気の育成

きょうどうを意識した活動(ペア学習、グループ学習など)

②人権教育の観点に基づいた取組 ⇒ **日々の学習活動を通して**

違いを受け入れ、認め合う。

→他者を大切にする。自分自身を大切にする。→自己肯定感を高める。

授業内外問わず、相手意識をもって生活していく。一人ひとりの持ち味の理解。

よさを受け入れる。平和学習や性教育、SDGsなどにつなげていく。(教科横断型)

***人権教育**

【 5 年】	単元名 (わたしの町のいろいろな国の人)
--------	------------------------

【 6 年】	単元名 (学校に行きたい)
--------	-----------------

◆R06 校内研テーマ

仲間とつながる授業づくり～きょうどう学習を通して～

【校内研のテーマに対する取組】

【 5 年】	【 6 年】
日頃の教育活動から、友だちの持ち味を見つけ、認めることができるような、協働学習を作り上げていく。	各教科、行事などで仲間とつながる手立てを用意し、1年間積み重ねていく。(タブレット、具 体物、資料、場の設定など)

【SDGsの取組】※テーマを決め、年間を通してやり切りましょう! (「やり切る」が大事!)

テーマ: 誰一人取り残さずに学年みんなで目標を達成していく力

【道徳教育のあり方】

【 5 年】	【 6 年】
学校行事や他教科、現状の課題とつなげながら、教材を選択し実践する。 自分自身を見つめなおすことができる時間に する。	・学年の現状に応じた教材の入れ替えなどを行う などのカリキュラムマネジメントする。 (「修学旅行の夜」など) ・各項目において、「価値理解」「人間理解」「他者 理解」につなげる授業を展開する。